

水戸女子高校は、長い歴史の中で学校の仕組みや制服などが変化してきました。しかし、「社会に貢献する女性の育成」という建学精神に基づく指導は変わっていません。

それでは、水戸女子高校の卒業生がどのように社会で頑張っているのでしょうか？卒業生にインタビューをしてみました。

第10回は日向寺麻衣(旧姓：入江)さんです。日向寺さんは平成15年度に入学し、普通科を選択しました。現在はフラワーショップ『憧れ 花のアトリエ』に勤務をされています。

インタビュアー：生徒募集強化委員会 西内豊人

高校生活は辛かった…。

今日はインタビューを受けていただきありがとうございます。早速ですが、水戸女子高校を選んだ理由は何ですか？

高校でもバレーボールがやりたかったので、県ベスト8にいた水戸女子高校のバレーボール部で頑張りたいと思い、入学を決めました。

水戸女子高校での高校生活は、実際どうでしたか？

正直、辛かったです(笑) いくら校則でも携帯電話を持つことが出来ない*1って『今時ないだろ?』と思いました。また、バレーボール部の練習も当時は男子校並みの練習だったので、本当にきつかったです。

当時の校則*2は厳しかったですからね。学校をやめたいとは思わなかったのですか？

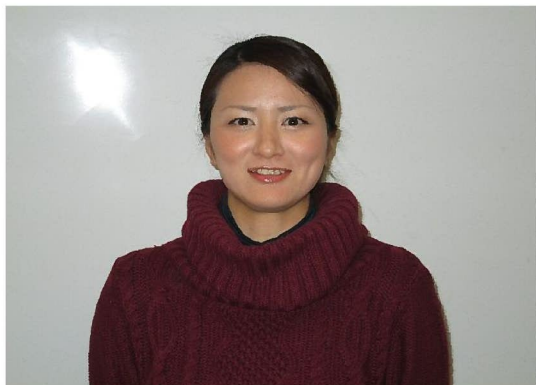
「ここで学校をやめたら負けになる」・「バレーボール部の監督の先生を試合で勝って泣かせたい」という気持ちが強かったので、高校生活を頑張りました。

実際、試合に勝って監督の先生が泣いていましたよね。高校時代の思い出の1つになっていますね。

でも、「早く高校生活、終わってほしいなあ」という気持ちが強かったですよ(笑)

*1: 現在は「持ち込み許可願」の提出によって、校内への携帯電話の持ち込みや校外での使用を認めている。

*2: 校則は随時点検・見直しをかけ、時代にあった校則づくりを心掛けている。



卒業してから10年たちますが、高校時代と全く変わっていませんね。



インタビュー当日は入学手続き中だったため、空き教室でお話を聞きました。

「刺激」の重要性

卒業後の進路はゴルフ場への就職でした。どうして就職を選んだのですか？

私立高校に通わせてもらったので、これ以上親に迷惑はかけたくないという気持ちが強く、就職を選びました。

ゴルフ場の受付として6年間勤務されたそうですね。受付の仕事はどうでしたか？

最初は本当に大変でした。独自のソフトを使って業務をしたり、デザインソフトを使ってちらしを作ったりしました。当時はまだパソコンが今のように普及していたわけではないので、パソコンをほとんど使ったことがありませんでした。「高校の時に商業科を選択しておけば良かった」と思ったぐらいです。

他に苦労されたことはありますか？

ゴルフ場のお客様は年齢に大きな差があるので、その年齢に合わせて対応を変えなければならぬ点も苦労しました。

6年間勤務したゴルフ場から花屋への転職。きっかけは何だったのですか？

勤務して5年目ぐらいの時、仕事に慣れてきたためか、新しい刺激が少なくなっていました。あと、仕事に余裕が出来たせいか、仕事がある程度片付いた時にふと時計を見てしまう自分が嫌でした。そんな中、知り合いの結婚式に参列した時、アレンジメントされた花を見て、「アレンジメントすごいなあ。花屋やってみたいなあ。」と思い始め、ブライダル関係の花屋の求人を探し始め、今の職場に採用されました。

花屋は女の子の憧れの職業というイメージがあります。花屋の仕事は実際どうですか？

勤務して4年になりますが、今も勉強中です。現在勤務している花屋はドイツ風のアレンジメントなので、一般的な花屋のアレンジメントと異なります。また、リピーターが増えていくとアレンジの幅が必要になるので、とても大変です。また、ブライダルの方だとすり合わせを行なう時に、ニーズに合うような提案が出来るか、イメージに近い実物を作ることが出来るかなどが大変です。

あきらめる前にすべきこと。

高校時代の経験は生きていますか？

バレーボール部で「忍耐強さ」を学びました。部活動でとても鍛えられたので、心が強くなりました(笑) ちょっとしたことでも「高校時代に比べれば…」と考えられるので、まず耐えられますね。

最後に在校生にメッセージをいただけますか？

後輩を見ていると、簡単にあきらめてしまう人が多いですよ。私から言わせると、そのレベルまでに達していないのにすぐにあきらめてしまい、「私には出来ません」と言って仕事をやめてしまうのが残念ですね。精神的にもっと強くなって、高校を卒業してほしいと思っています。頑張ってください。

本日はありがとうございました。

日向寺さんとじっくり話した機会がなかったのですが、本音が多く聞けたインタビューになったと思います。また、身近でありながらあまり知られていない花屋さんの裏側が聞けて、とても参考になりました。日向寺さん、体調に気をつけて頑張ってください！

「『社会に貢献する女性』を訪ねて」は年3回の発行を予定しています。次回もお楽しみに。

☆記事は執筆時の情報に基づいており、現在では異なる場合があります。